

第 9 回 (12/3) 社会への帰属と自由

1. BBS 投稿から

「…今回の講義は今までよりも難しかった分、考える力が身についたと実感するものだった。」

「…自分らしさとか、個性とか、性格とか、考えれば考えるほどよくわからなくなったので難しいなと思った。」

「オレ様化現象にある学ぼうとしなくなった(色んな人から吸収することをしなくなった)とあるが、吸収出来るものは吸収するし、そうすることで、自分の武器にもなると感じた。なので、学ぼうとしなくなったと決めつけるのは違うと思う…。」

「昔の共同体的関係が崩れ、市民社会的関係へと変化しているという考えがあるが、今でも共同体的関係が残っていると感じることもある。ただ、この関係にはデメリットがある…。」

「学校や教員、親への対人感覚で、共同体的関係が市民社会的関係となったとある。だが、いかなる時も対等な関係ではないのではないだろうか。相手の性格などから判断して自分が優位になれるような場合には反抗し、逆なら従う。納得できないことには従わないのではなく、相手によって態度を変えていると思う。」

「人間誰しも「個性」があり、それを否定することはその人自身を否定することにつながる。十人十色という言葉があるように、人それぞれの形がある。全てを受け入れて関わっていくのは難しいが、多少の妥協も必要であると思う。」

「個性とは他者と異なること、つまり独自性であり、生きていくうちに積みあげて形成されるものだと思う。他人と比べて初めて自分の個性があると実感すると思う。人と違うことは当たり前だし、自分は自分らしく生きていきたいので自分の個性は尊重したい」

「私は、人は生まれ育った場所、どんな両親から生まれ、どんな友人や先輩後輩、先生などに会おうか、どんな躰を受けてきたかなど、生活の全てが自分を生み出すと思います。なので、生まれた直後から自分らしさを生み出すことはスタートしてるとは思いますが、生まれ持ったものかと言ったら違うように思います。」

「今回の授業を受けて、個性について考えていた時に金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」という詩を思い出した。私も小鳥も鈴もじっとしているだけではただ存在しているだけで、それだけでは個性があるとはいえない。私は歌う、小鳥は飛ぶ、鈴はなるというアクションが起きて初めて違いが出てきて、みんな違ってみんな良い、つまり個性があると言えるのではないか…。」

「マナーを守らないのも、優しい・厳しい・マイペースなどの性格も全てその人しか持ち合わせないものなので個性に含まれると思う。ただ、それを『個性だから』と他人に受け止めてもらうのを強要するのは違うと思う。『個性だから』にも許容範囲があると思った。『個性』というのはいいい面も悪い面も持ち合わせてると思った。」

「一人一人の個性を大事にしたいと私は思っている。しかし、自分が思ったことをはっきり言うタイプだからと言って人が嫌な気持ちになることを言ったりする人を個性だからと受け入れられるわけではない。直して欲しい、と思うが個性だからなどと言われてしまうと、何も言えなくなってしまう。」

「個性というのは時と場合によって自分に都合が良いように使い分けられていると思います。今までにも何かを決めるときに個性だからと言って逃げてしまった場面が私にもあるような気がします…。」

「たしかに個性は大切だし尊重するべきだと思うけど、それで周りに迷惑をかけるようなことでも「個性」だというのは違う。それはただのわがままをごまかすために自分のことを美化してるだけだと思う。社会で生きていく以上周りにある程度合わせることも必要だと思う。」

「…周りに迷惑をかけたり、自己中心的な行動は個性ではないと思う。」

「「個性」は、相手や周囲のことを尊重・理解した上で表れるものだと感じた。他人を受け入れたり尊重しないのに自分の個性や考えを押し付けるのはわがままになってしまうと考える。」

「“個性”は人が生まれながらにして持つもの・性格であり、また人は日々個性を成長させながら生きていると思う。だから自己中人な性格もその人が今まで育ってきた環境の中で育て上げられてきた個性の1つだと思う。だがわたしは“個性だから仕方ない”という言葉に納得はできない。個性を社会の中でどう適応させていくかが大事であり、自分の個性をより成長させる(変えていく)必要があると思う。」

ほか多数

過去の投稿から

「…私も時々、自分らしさとは何か考えることがあります。自分らしさとは、自分がこのようにしたい、なりたいなど努力することではないでしょうか？」

「「自分らしさ」というのは、努力しなくても常にあるものだと思います。私はそれを、自分とは何か、どういう存在なのかという自身に対する問としてとらえています。だから、自分の性格、得意不得意、マイナス面もプラス面も今あるものすべてひっくるめて「自分らしさ」と言ってしまっているのだと思います。」

「自分らしさは大切だが、社会に出て生きていく上で大切なルールを守るということを前提に自分らしさを表すことが大事なことだと考えた。」

「オンリーワン思考〔志向〕について、私は個性は誰にでもあると思います。つまりただボーっとしている人にも個性はあるということです。ただボーっとしている人にも好き嫌いはあると思うし、「私は赤が好き。」「私は黄色が好き。」それが個性だと思います。」

「オンリーワン思考〔志向〕について。「自分らしさなどというのは、努力してはじめて手に入れることができるものだ」と、そこまでハッキリは言わないけれど、やっぱり何かしら自分でやってみないとどういうことが自分らしいということなのか、に気づけないと思います。いろんなことに挑戦して、周りの人と比べてみて初めて自分の長所短所がわかるんだと思います。」

「自分の考えにとにかく言われたくないという気持ちは多少あります。否定される場合、かなり攻撃的な言葉を使われて、反論したいけど正論ではあるし、黙っとくしかないという状況はよくあります。自分でちゃんとわかっているのに、何度も何度も同じことを言われて怒られると嫌にはなります。自分の考えを否定されるのはなんだかあら捜しをされているみたいで、参考になるときはなるんですけど、あまりにも攻撃的に言われると腹は立ちます。」

「自分について人からとやかく言われたくない人はいないと思います。自分から相手に相談してアドバイスを求める場合でも自分を真っ向から否定された考えを受け入れることは難しいです。親や親しい友人にも踏み込んでほしく

はない領域はあって、オンリーワン志向や自己中心性も自分を守るための手段だと考えました。」

「色々と自分に言ってくるのが他人であれば、なんでこの人に言われなきゃならないのだろう。や、私の何が分かるのだろう。と思うことがあるが、それが親であれば、しっかりと私のことを理解してる上で色々と言ってくるのは仕方がないことだし、受け止めるように私はしています。言われる内容や人柄によって、受け流すのか、受け止めるのか、多少異なるのではないかと自分自身感じた。」

「他人から注意されるのは、あまり気持ちの良いものではありません。私は他人から注意されたりするとすぐ気にしてしまい、くよくよ悩んでしまいます。ですが、自分の悪いところを注意してくれたのだから直すように心掛けます…。」

「…自分の考えについて人からとやかく言われる事は悪い事ではないと思います。なぜなら、100%もしも自分が考えたことや思ったことが正しいという事がありえないと思うからです。しかし、とやかく言った側の意見が正しいというわけでもないから実際コミュニケーションの取り方や生きていく上で正解なんてあるとは思いますが、人から言われた事で気づけることもあると思うし自分はそんな風に思えないなと思ったとしても参考にはすると思うので、人からの意見も大切だと思います。」

「私は自分の考えに対し、他人にとやかく言われてもそれは仕方がないことだと思います。他人と自分の意見が違うというのは当たり前のことで、全く同じ意見を持つ人はほとんどいないと思います。自分の意見が正しいとか他人の言うことが正しいと思うのではなく、たくさんの人の様々な考えの中でベストなものを見つけ出すことが大事だと思います。」

「自分の考えについて人から何か言われることについて私はいいいことだと思います。自分と違う考えもあるんだと思うし、それを聞いたことによって考えを変えるかどうかなんて最後は自分で決めることだと思うので。聞きたくないから聞き流せばいいと思います。」

2. 議論・検討の趣旨確認 ——本講のねらい

社会学的な検討（←社会学的発想・思考）

-
-

3. 確認：議論の方法 ——何を話せばいいのか（再掲）

筆者の主張（相手の発言内容）に対する

① 質問

- 言葉・用語の意味がわからない
- どういうことを云っているのかがわからない（説明があいまい、具体性に欠ける…）
- こういう理解でよいのか（説明が不十分なので精確に理解できない）

② 共感

- この主張、この指摘、この言葉はそのとおりだと思う。的を射ている。
- これに関連して、このような事例も挙げられる／こういう言い方もできる

③ 疑問・批判

- 根拠は？
- 5W2H
- こういうふうにも考えることもできるのではないか… etc.

cf. “5W2H” の発想 （以下、たとえば）

When

- 昔からそうなのか
- その解釈は今もあてはまるか

Where

- どの社会・地域にもあてはまるか
- 全国一律にそうなのか

Who

- 誰にもあてはまることなのか
- 誰がみても、そういえるのか

What

- 何を云っているのか（正確な理解。著者が主張しているのはどのようなことか）
- 何に対してもあてはまるか

Why

- なぜそういえるのか（根拠）
- なぜその現象が起きるのか（原因）

How

- どんなメカニズムでそうなるのか
- どのように考えるべきか

ホントに？

- ホントにそういえるのか
- 解釈や根拠に誤りはないか

4. 本日の資料 —— 論点整理

- 「勝手気まま、思いのまま、自由に生きる」
- 「欲しいものを手に入れる（自己の欲望充足）」
- 「自分の好きなことを好きなようにする」（イヤなことキラいなことを避ける） という生き方

↓

- 好き勝手、自由気ままな生き方は、（ところが）満たされない、自分の人生が空っぽ、幸せを感じることができない

「自分の思うがままに生きることが素晴らしい」という価値観

↑

- 我々は組織の中や社会のがんじがらめに生きてきた
- 組織が一番、コミュニティが一番で、自分を犠牲にするのが当たり前の社会（だった）
ex. 自分の自由を全て夫や子どものために犠牲にする人生に耐えられなくなり...

通過儀礼（“大人”になるための）

- 社会に出ると、とたんにとても理不尽で、自分を否定され、敵だらけの世界に放り出される。
- 「みんなが見方で、みんなが優しい」とは限らない状況
- 大人になる＝社会に属すること
- 大人になる＝コミュニティ（会社組織・家族・地域社会）に属し、貢献すること
- 「自分のために生きていた弱い主人公が、葛藤を乗り越え、人々のために生きようになる。これが大人ってやつだ。」

自分の価値と存在意義 —— 社会への帰属、他者との関係

- 人は、誰からも（自分を）認められたいと思っている
- 我々は他人との関係の中で自分（の価値・存在意義）を見いだす
- 我々人間という生き物は、社会の中で生きるように作られている。
- （我々人間という生き物は）組織や集団に属して、それに貢献しなければ、安定した幸福や安らぎを感じられないようにできている

結語

- 欲を満たすだけでは心は満たされない
- 組織に属し“貢献している”感覚が安定をもたらす

5. 検討・考察

6. 参考文献

MSN ドニッチ！

(<http://donicchi.jp.msn.com/opinion/goodwill3/article.aspx?cp-documentid=251603558&page=0>, 2012/12/16)

J.S.ミル、塩尻公明・木村健康訳、1971、『自由論』岩波文庫

I.バーリン、生松敬三他訳、1971、『自由論 1・2』みすず書房

井上達夫、1999、『他者への自由』創文社

数土直紀、2000、『自由の社会理論』多賀出版

数土直紀、2005、『自由という服従』光文社新書

仲正昌樹、2003、『「不自由」論 ——「何でも自己決定」の限界』ちくま新書

大屋雄裕、2007、『自由とは何か ——監視社会と「個人」の消滅』ちくま新書

橋本努、2007、『自由に生きるとはどういうことか』ちくま新書

7. 次回の予告

12 月 10 日 幸福について 1 ——選択と幸福

以 上

【授業 HP】 <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

【BBS】 <http://9021.teacup.com/tenomoto4/bbs>